

＜志お屋の SDG s の取り組み～ゼロカーボンアクション事業＞

2022 年 12 月に日立市で脱炭素につながる取組の応募があり、
志お屋 SDGs 企画＜布を大切に作る心＞の着物リメイクを応募したところ、
日立市よりゼロカーボンアクションの表彰を受けました。



志お屋の脱炭素に向けた取り組みは
捨てるような布地（着物他）からアップサイクルとして
新たな製品や作品に生まれ変わらせる着物リメイクのことで
環境への負荷を最小限にしながら資源を魅力的に活用する方法を紹介しました。
着物からの日傘や風呂敷からの足袋、ネクタイからの鼻緒、スカーフからの帯の製作
そして古着や端切れを利用したパッチワークキルト展の開催など他にもいろいろと



きもの屋としてできる取り組みをこれからも脱炭素社会実現へ向け続けていきます。

商店レベルでは僅かの CO2 削減にしかならないかもしれませんが

街の商店でもできる脱炭素への取り組み

つくる責任、つかう責任、そして売る責任を感じながら
ゼロカーボンシティへ向けて少しでも貢献できればと思っています。

＜取組の概要＞

2022 年 3 月から SDGs 企画として布を大切にする心をテーマに、
廃棄する着物や帯、布地をリメイクし再利用する企画を行いました。

3 月にはサイズや汚れのひどい不要の着物を裂き織で帯にリメイク

＜企画名：思い出りめいく裂き織の帯展＞



汚れたり破けたりして不要になった廃棄処分の着物を桐生織により裂き織の帯に製作
再利用できるように素敵な柄の帯にアップサイクルいたしました！

8 月には端切れ布を利用したパッチワーク・キルトの作品展を開催

＜企画名：パッチワークキルト展＞



20 年以上続けられているお客様によるパッチワーク・キルトなど端切れや古着を利用した作品展
毎年 30 名以上の方が作品を出品致します。最高齢では 90 歳の方の作品も展示されました！
芸術作品として生まれ変わり、端布も無駄なく利用することができました。

9 月は不要の着物や帯や風呂敷を利用して日傘やバック、足袋にリメイクする企画を開催

＜企画名：着物悉皆（しっかい）巧の展＞



着物悉皆という昔ながらの着物再生技術や縫製の巧など着物屋だからこそできるアップサイクル
風呂敷からの足袋、着物からの日傘、帯からのバック、手拭からのシャツ
そして昔ながらの染替えによる着物再生など伝統の技術から脱炭素社会への取り組みをご紹介します！

2023 年 3 月は不要のスカーフやネクタイから帯や草履の鼻緒にリメイクする企画を開催

＜企画名：きもの SDG s ～布を大切に作る心は継続事業＞



タンスに眠っていた思い出のスカーフやネクタイは上質のシルクを使用したモノ

昔ながらの着物の染め替えは良い生地だからこそできるアップサイクル！

天然資源の価値のあるものは更に今の時代に合わせた必要なものに生まれ変わります。

絹や麻・綿などの天然素材の価値と再生能力を知っていただき SDGs 企画を継続事業として行います

＜思うこと～今後の展開＞

志お屋ができる SDGs…様々な企画を行ってきた中で好評であり分かりやすかったのが

着物からの日傘へのリメイクでした

着物を洋服やバックにリメイクする取り組みは以前から多く見られましたが

日傘のリメイクは少なかったと思います。

当社では地球環境問題による気温の上昇が叫ばれる昨今

日傘を必要とする期間も長くなり始め

男女問わず若い方でも利用者が増えてきたことから日傘に注目しました。

日本の伝統文化を継承し、資源を無駄にせず天然素材を生かした製品として

着物の日傘へのリメイクは SDGs の理解を深め

脱炭素社会の実現に向けて多くの人に新しいライフスタイルの

提案ができるアイテムとして活用できると思います。



※シルク素材は日傘に最適！

天然繊維であるシルクには、紫外線を吸収するという日傘に効果的な機能が備わっています。これは、繭の中の蚕が紫外線を浴びないように守るために備わった機能であり、人体に有害な紫外線がシルクの組成であるタンパク質源に吸収されて透過量が減少するためです。蚕が自然環境の中で生き抜いてきた間に獲得した素晴らしい機能です。

他にも布の再利用から天然資源の大切さをご理解いただけるような取り組みを

着物屋の事業を通して永続的に推進していくことと

綿・麻・絹などの天然素材の製品を中心とした販売に特化し

着物の仕立て直しやサイズ直し染め替えなど

布を無駄にせず再利用できるようなサービスを充実させていくことで

ゼロカーボンシティへの推進に貢献できればと思っています。

＜着物屋として志お屋ができる SDG s＞

SDG s (17 の持続可能な開発目標があります)、17 個挙げられた開発目標の一つに

「12 つくる責任、つかう責任」という項目があります。この中の

12-2：「2030 年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。」

12-8：「2030 年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和した
ライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。」

12-b：「雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対し、
持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する。」

以上は着物業界ならではの悉皆（しっかい）と呼ばれる着物再生の技術や考えであり
昔から続けられてきた和装業界のスタイルです

※**悉皆とは**…業界用語で「悉皆（しっかい）」といいます。悉皆とは簡単に言うと着物の再生を請け負う仕事です。
もともとは全てを請け負う着物プロデューサー的な役割で染替えや誂えなどの専門家、現代ではきものクリニック
などの名称で染み抜きなどのお手入れ加工を請け負うのもその一つです。仕立てや縫いなども請け負います。

たとえば現代で言う世代を超えたお母様の振袖を娘さんが利用するママ振や

リサイクル着物の活用、バッグや洋服へのリメイクなど

資源を無駄にせず、長期的に使用することを前提とした

着物は洋装で言うサステナブルファッションと言えます。

和装業界における「悉皆（しっかい）」を「SDGs の取組」として説明し

着物と SDGs の価値の関連性を発信することで

これからの SDGs に関心が高い世代に、本来の着物の特長が理解されるかもしれません

世界の目標の SDGs から着物を世界に向けてのアピールにも繋がります。

志お屋が着物屋として 100 年近く生業としてきた経験と知識を活かし

日本の伝統文化を継承し染と織にかかわる製品や天然素材を生かした製品を

地域に自然に調和したライフスタイルの情報の発信と提案をし続け

国際社会が掲げる指標に少しでも近づき微力ながらも日々貢献できればと思っております。